

6月は梅雨の季節です。雨天での運転が増えます。
撥水剤などで視界の確保を。タイヤの溝もチェックしましょう。

スマートフォンでQRコードを読み込むと、DVDと同じ映像をインターネット経由でご覧いただけます。

この用紙は両面印刷でご使用ください。

(表)



タイヤのすり減りは事故のもと

この映像の訴求ポイントは…

- ◎タイヤのすり減りは事故のもと。定期的なチェックを！
- ◎雨の日の急加速・急ブレーキ・急ハンドルは禁物です。

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



あわや、人身事故！

この映像の訴求ポイントは…

- ◎横断歩道の通過時は目視で左右確認を！
- ◎雨滴で見えにくい場合は撥水剤などで視界をクリアに。

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



もう少しブレーキが遅ければ、轢いていました。

この映像の訴求ポイントは…

- ◎駐車場は徐行が鉄則！
- ◎駐車場では子供の手を離してはいけません。

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



過失割合より事故を起こさぬように！

この映像の訴求ポイントは…

- ◎見通しの悪い交差点は徐行が鉄則！

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



運転中の器具操作

この映像の訴求ポイントは…

- ◎低速走行中の機器操作（車内への脇見）は事故のもと！
- ◎走行中は運転操作だけ。別のことは駐・停車中に。

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。

【コラム】ゲリラ豪雨時のアンダーパスは要注意！

近年、ゲリラ豪雨などで冠水していることに気が付かずに侵入し、車が水没する事故が多発しています。水没事故の危険がある冠水場所は、主として鉄道や幹線道路の立体交差にあたるアンダーパス（半地下式のトンネル道）です。これら冠水注意箇所は、首都圏一都六県だけでも800箇所にあつたなど、全国に点在しています。

アンダーパスをはじめとする冠水の恐れがある道路には、あらかじめ排水用のポンプや警告表示板などが設置されていますが、集中豪雨の場合は、ポンプによる排水が間に合わないなどで、冠水してしまう場合もあるそうです。また、入口に設置されている警報機がうまく作動しないということもあります。

冠水した場所に車が進入したらどうなるか？ JAFで実験を行ったところ、セダンタイプの車で水深が30センチと大人の膝下くらいの水の量でも、場合によってはエンジン内部に大量の水が入ってしまい、エンジン停止を誘発する恐れのあることが分かりました。

実際の冠水路では、一見、水位が低そうに見えても水深が深い場合があります。運悪く冠水路で立ち往生し、クルマが水没してしまうと、水圧でドアが開かずに車内に閉じ込められるなどの危険が生じます。冠水路に遭遇したら安易に進入せず、迂回するようにしましょう。

- 1) 豪雨時は視界も悪く危険なため、一時的に運転・外出を控えましょう。
- 2) やむを得ずに運転する場合は、冠水の危険がある場所は避けて通らしましょう。
- 3) 冠水路は見た目では水深が分かりません。安易に進入せずに、迂回しましょう。
- 4) 冠水注意箇所は国土交通省の地方整備局がホームページで公開していますので、事前にチェックしておくのもお勧めです。
- 5) 緊急時に脱出するための道具を装備しておくで安心です（※窓を割るハンマーとシートベルトを切断するカッターが一体となった専用のものが量販店で販売されています）。



- [1] 水深60センチの状況でスライドドアを開けるのは非常に困難だった。
- [2] ドアが開けられない場合はハンマーでサイドウィンドウを破壊して窓から脱出する。
- [3] シートベルトカッターと一体型となったハンマー。運転席から手の届く場所に常備したい。